

三中だより

令和8年2月24日発行
門真市立第三中学校
校長 杉井 信夫

【学校教育目標】

〈心を磨く〉
感じる心、思いやる心を持ち、物事を多角的・多面的に考え、誠実に生きる生徒の育成
〈知性を磨く〉
意欲をもって積極的・主体的に学び、深く考え、行動する生徒の育成
〈身体を磨く〉
元気で、粘り強く、そしてたくましく社会を生きぬく生徒の育成

【令和7年度の重点目標】

- ① 積極的・主体的に学び、深く考え、行動する（生徒も大人も）
- ② 主体性の土台である安心・安全な学校環境をつくる（生徒も大人も）

ありがとうの思い出（生徒集会より）

ある学校で保護者を対象にアンケートをとりました。『あなたの心に残っている「子どものころのありがとうの思い出」は何ですか?』これには下のような回答が集まりました。

- ・病気で学校を欠席したときに、友達がプリントを家まで届けてくれた
- ・体調をくずして家で休んでいたときに、親が私の好きな果物を買ってきてくれた
- ・熱を出して寝ているときに、親が様子を見に来てくれて一緒に寝てくれた
- ・遠足の時に遅刻しそうになって祖母が私を自転車の後ろに乗せて送ってくれた
- ・転んで泣いていたら、上級生の子が来て、「だいじょうぶ?」と声をかけてくれて保健室まで連れて行ってくれた
- ・体調をくずして早退する時に友達が心配して声をかけてくれた
- ・転校して言葉や遊びのルールの違いにとまどっている私を友達がいつも気にかけてくれた
- ・合唱でピアノ伴奏をすることになったが、なかなか上手に弾けなかったときに、みんなが励ましてくれて無事に本番が終わった
- ・仕事でなかなか休みが取れない親が、運動会に応援に来てくれた



このアンケート結果から、『子どものころのありがとうの思い出』には共通点があるとわかります。それは、自分が困っている時に人から何か親切な事をしてもらったということです。少し大げさかもしれませんが、人には他の人から「思いやり」をもらった時、そのことをいつまでも覚えているという本能があるのではないのでしょうか。それくらい「思いやり」というのは人と人が寄り添って生きていく上でとても大切なことなのだ思います。

このアンケートには2つ目の質問がありました。『「思い」と「思いやり」の違いは何だと思いますか?』という質問です。この質問に対して、保護者は次のように回答しています。それぞれなるほどと思う答えです。

- ・「思い」は自分でできること「思いやり」は相手がいて、その相手に伝えること
- ・「思い」は単純に考えること「思いやり」はその人の身になって考えること
- ・「思い」は自分の気持ち「思いやり」は相手の気持ちになって考えるやさしい気持ち
- ・「思い」はこうしたらいいと思うこと「思いやり」は相手のことを思って行動すること
- ・「思い」は心の中で思うので目に見えない「思いやり」は行動に移すので目に見える

さて、あっという間に3学期も残り半分です。今の仲間と過ごす時間はわずかになりました。この残されたわずかな時間の間に、自分が誰かの心に一生残る「ありがとうの思い出」になれたら素敵ですね。

第3回学校運営協議会（コミュニティ・スクール）より

【第3回:令和8年2月17日(火)開催】

1. 学校評価・自己診断アンケート結果報告

○生徒アンケート

- ・「学校に行くのが楽しい」は92%と高い。今後も100%を目標に取り組む。
- ・「主体性の育成」に関わる項目(自分の考えを発表する等)が90%を超え、昨年度より大きく上昇。
- ・「授業で学ぶことは楽しい」「自分で考え自分から取り組む」など昨年比4~7%上昇し、授業改善の成果が見られる。
- ・「自分に良いところがある」「失敗を怖がらず挑戦したい」も昨年比6~10%上昇し、生徒の自己肯定感が上がっている。

○保護者・教員アンケート

- ・保護者の肯定評価も全体的に上昇。「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」「教育方針の分かりやすさ」が11%上昇。
- ・教員アンケートの回答率がほぼ100%となり、教職員のチーム力・満足度も向上している。

○次年度の方向性

- ・今年度の「主体性を育む環境づくり」を継続。
- ・小中一貫教育を推進し、中学校区の「めざす子ども像」「学校教育目標」を全教職員で共有し、発達段階に応じた教育活動に取り組む。
- ・授業を通じた非認知能力の育成を進め、授業づくりの土台として定着させる。
- ・「安心安全な学校環境(安全基地)」の定着と、コミュニティ・スクールを活かした体験の場の拡充を目指す。

2. 今年度の学年取り組み報告

○第1学年(福祉体験)

- ・車椅子・アイマスク体験を経て、地域の高齢者施設を訪問。
- ・風船パレーやクイズ、節分イベント等を通じて交流。生徒は最初緊張していたが、最終的には「優しい時間」を共有でき、学びが深まった。

○第2学年(職場体験)

- ・6年ぶりに実施。47箇所の事業所を開拓。
- ・地域の方から「よく頑張った」と高評価。学校では見せない生徒の成長(子どもをあやす姿など)が確認できた。
- ・3月17日には生徒主体で企画する学年合唱(保護者向け)を予定。

○第3学年(修学旅行・進路)

- ・長野県での民泊・体験学習を実施。事前のコミュニケーション準備(大阪紹介等)を行った。
- ・進路に向けては、私立高校の先生を招いた説明会を実施。主体的な進路選択が課題。

○安心安全な学校環境づくりについて(児童生徒支援Coより)

- ・「ポジティブ行動支援(PBS)」を推進。頑張っている生徒に目を向け、認める指導を徹底。
- ・「三中スタンダード」に基づく自己評価を三者懇談などで活用。
- ・掲示物や生徒の頑張る姿の写真掲示の充実、学期ごとの教育相談、生徒のやりたいことを実現する行事(生徒会)等により、生徒と教師の信頼関係が深まっている。

委員

会長 同志社女子大学准教授
副会長 保護司 元小学校校長
本町第一自治会長
地域学校協働活動推進委員
元PTA 副会長
PTA 会長

教職員

校長
教頭
児童生徒支援 Co
1年学年主任
2年学年主任
3年学年主任

〈裏面もあります〉

3.小中一貫教育

- ・来年度に中学校区で統一した「学校教育目標」を設定する。設定の過程に生徒や児童、保護者や地域の意見も取り入れたい。
- ・校区統一の子ども像は「主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる子ども」で調整中。
- ・学校運営協議会も令和9年度に統一する方向。来年度はまず小学校が学校運営協議会を合同開催する。

4.協議：来年度の地域連携・コミュニティスクールに向けて

「主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自分の人生を舵取りすることができる子ども」をテーマにグループ協議。

○課題と提案

- ・教員は授業づくりに悩みながら取り組んでいるが、時代性として自己決定できる子どもを育てる必要がある。
- ・生徒が事業所へ直接電話した際、大人の側の理解(学校を通すべきという固定観念)が壁になることがあった。学校だけでなく地域の理解も不可欠。
- ・自由進度学習は授業の目的がある程度絞られていないと生徒はやるべきことが見えない。やりたくないことはやろうとしないことも。進路決定も同様。
- ・職場体験の開拓において、美容・ペット関係など生徒のニーズが高い分野の協力先をさらに広げたい。
- ・職場体験の発表会(アウトプット)に、受け入れ先の地域の方や、来年入学する小学6年生・保護者を招待してはどうか。中学校のイメージが湧き、ボランティア募集の場にもなる。
- ・保護者の理解と応援を得るために複数回オープンスクールの実施が必要。
- ・保護者や地域の大人が「背中を見せる」機会(おやじの会など)の検討。

生徒会・児童会合同募金活動

2月13日に、校区小学校児童会と本校生徒会とが合同で「国境なき医師団」への支援活動としての募金活動を行いました。当日までに本校生徒会執行部が小学校の児童集会に参加し、この活動の意義や国境なき医師団の説明を小学校に伝えています。募金活動は古川橋駅前と門真市駅前に分かれて行い、合計30,172円の募金が集まりました。生徒会役員が郵便局へ行き、団体へ振り込んでくれました。

皆様ご協力ありがとうございました。



部活動の結果 おめでとうございます！

「陸上部」 北河内地区駅伝競走大会 ジュニア男子の部
門真市選抜6名の中に三中から2名が選ばれました
第2区 2年 区間賞 記録9分37秒
第4区 2年
この2名は万博公園で行われた市町村駅伝の選手にも選ばれました



3月の行事予定

2月26日(木)27日(金)1・2年生習熟度確認テスト

3月2日(月)特別選抜発表

3日(火)各種委員会・選管(後期最終)卒業式練習開始

4日(水)公立一般出願 生徒会選挙公示

5日(木)公立一般出願 評議会(後期最終)

6日(金)公立一般出願 3年生給食最終

9日(月)選挙管理委員会

11日(水)公立一般入試 2年ようこそ先輩

12日(木)支援学校入試 3年生を送る会

13日(金)卒業式

16日(月)支援学校発表 門真警察情報モラル授業

17日(火)避難訓練(不審者)

18日(水)生徒会選挙 選挙管理委員会

19日(木)一般選抜発表

23日(月)Ⅲフェス 給食終了

24日(火)修了式

**3年生の皆さん体調を整えて
公立入試当日をむかえてく
ださい。**

応援しています!

